

Shin

信頼の絆で共に伸びゆく新時代 — 全印工連の **CSR** マガジン

2016.07

vol. **07**



長野

亜細亜印刷

外部評価のメリットを経営に活かす

埼玉

望月印刷

「社員が笑顔でいられる会社」へ

▼ CSR 認定企業紹介

▼ CSRTピックアップ

全印工連・未来に向けて『2025計画』を策定

CSR検定 第1回2級・第4回3級試験を10月に開催

日本商工会議所 人手不足に関する調査実施

▼ CSR元気企業紹介「この会社に学べ！」

ソーケン



全日本印刷工業組合連合会

望月印刷株式会社

本社：埼玉県さいたま市中央区田阿弥5丁目8-36 創業：昭和25年 従業員：1000名
代表者：望月諭 認定取得：2013年9月 <http://www.avenue.co.jp/>

“グッドスマイル”が生み出す相乗効果で

「社員が笑顔でいられる会社」へ。

——望月印刷の普段の業務内容から

お聞かせください。

望月 埼玉県内を中心に、商業印刷物を主力商品として提供しています。

お客様は金融機関や自動車ディーラー、官公庁等が中心ですが、過去には県立高校を中心とした同窓会名簿の作成を手伝わせて頂き、約180校もの名簿を作成した実績もあります。現在でも地元の学校関係のお客様と繋がりが深いのも弊社の大きな特徴ですね。

また、民間のお客様には会社案内をはじめ名刺や封筒、ポスターやノベルティなどを提供しているほか、学校関係では学校案内をはじめとして印刷物の「囲い込み受注」を基本とした営業活動を行っています。

印刷物以外では、Webや動画の制作もしており、こちらも印刷物と併せ、様々な企画で採用して頂いて

おります。

——望月社長がCSR活動を意識し始めたきっかけは何ですか。

望月 4年前になりましたが、上場企業のお客様から環境報告書やCSR報告書のご依頼を頂き、仕事をしていくなかで「我々もCSRは大事にしないといけないな」という意識が芽生えはじめました。

しかし、そうは思いながらも「このような活動は大企業が取り組むものなのでは」とその時はCSRに対してまだ足踏みをしている状態でした。

それと時を同じくして、さいたま市が中小企業のCSRを応援する「さいたま市CSRチャレンジ企業認証制度」をスタートさせ、当社に声がかかりました。CSRコンサルタントの方、CSR報告書の依頼があった上場企業の方ともお話しする機会があり、「CSRが経営に身近であること」などの

助言を頂き、CSRに対する意識はそこから徐々に変化してきました。

私も社長に就任したばかりで、様々なタイミングや出会いが重なった結果ではありますが、企業理念やスローガンも含めて、CSRを根底においた経営に取り組んでいくことになりました。

——CSR経営をスタートするうえでの苦労はありましたか。

望月 コンサルタントの方からは「会社経営を盤石にする『守りのCSR』を果たさなければ、外部へのPRや社会貢献はできない」というアドバイスを頂き、まずは「さいたま市CSRチャレンジ企業認証制度」のチェックリストに従い、守りのCSRがクリア出来ているかを検証しました。

その結果、CSR＝社会的責任を果たすということは、望月印刷が長

い年月のあいだ、普段から意識せずに取り組んでいたことが数多く含まれていることに気づきました。

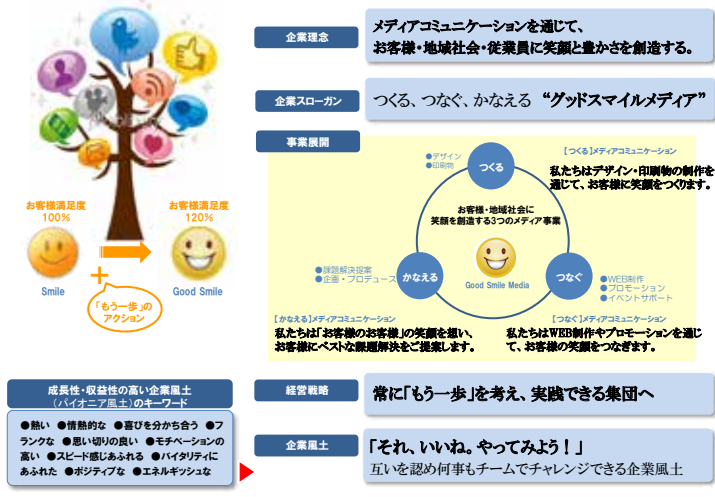
このように今まで意識もせずに自然とこれらの取り組みが出来ていたことは、望月印刷がこの埼玉の地で60年以上の歴史を歩み、社員も仕事へ真面目に取り組む風土が醸成されていたからだと思えます。

「すべての会社が当たり前に出来ていることではない」ということは、そこをPRすることで同業他社との差別化に繋がります。

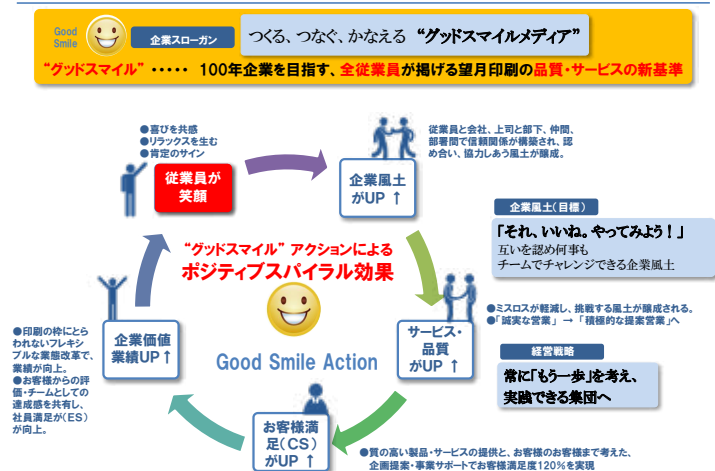
現在はCSR経営企業として積極的に自社をPRするとともに、地域に育って頂いた恩を返すため、地域貢献活動を中心としたCSR活動へ意欲的に取り組んでいます。

——企業スローガンにも掲げられている「つくる、つなぐ、かなえる、『Good Smile Media』





“グッドスマイル” へのアクション



Copyright 2013 by Mochizuki Printing Co.Ltd. All right reserved

菊地 現在はグッドスマイルメディアを目指すために「企業風土改革」と「提案力・開発力・技術力の強化」を柱とした、経営戦略計画を2014年度から開始しました。

「それ、いいね。やってみよう！」を合言葉に互いに認め、何事にもチームでチャレンジする。また、常に「もう一步」をキーワードとして、社員やお客様のことを考える。それらを実践していくことが、中長期における経営戦略の狙いにもなっています。

そのような中、社員からの「新しい社長が望月印刷を変えてくれる、変えるはずだ！」という気持ちの背中を強く押してくれました。

望月 私社長に就任する前の話になりますが、2代目社長である父が急逝。その後、創業者だった祖父が会長兼社長に就きましたが、その創業者も他界しました。当時は会社の方針がなかなか定まらず、希望が見えない空気も続くなか、経験の浅い私が社長に就任しても、どこまで頑張れるかも分かりませんでした。

の意味は。

の気持ちに込めるため、先ずは新しい会社の方針作りと、会社案内・HPのリニューアルに取り掛かりました。社内のコピーライターと話を煮詰めていった末にやっと辿り着いたのが「社員が笑顔でいられる会社」でした。それが「Good Smile Media」のスタートです。

社員が笑顔で頑張り、仕事をすることで、企業風土が向上し、サービスや商品の質も上がる。そうすることで、お客様満足(CS)が上がり、社員もより笑顔で仕事ができる。

このグッドスマイルアクションによる「ポジティブスパイラル効果」をおこし、100年企業を目指していくのが弊社の企業スローガンになります。

——社員の人たちには社長の考えをどのように伝えていきますか。

望月 最初は、毎年期首に開催する社員総会で、新しい会社の方針発表として1時間ほど説明しました。ただ、そこで終わってしまえば徐々に忘れてしまうので、全体朝礼の中で月に一度、少しずつ復習し、掲示もすることで周知を図っています。

菊地 現在はグッドスマイルメディアを目指すために「企業風土改革」と「提案力・開発力・技術力の強化」を柱とした、経営戦略計画を2014年度から開始しました。

「それ、いいね。やってみよう！」を合言葉に互いに認め、何事にもチームでチャレンジする。また、常に「もう一步」をキーワードとして、社員やお客様のことを考える。それらを実践していくことが、中長期における経営戦略の狙いにもなっています。



菊地常務

私は経歴や年齢で至らない部分もあり、印刷やデザインに関してもプロではありません。何か困ったことがあれば、社内にいるそれぞれのジャンルのプロに相談し、一緒に考えを出してその問題を解決します。その

お陰で私の留守中でも会社が問題なく回るようになりました。私は外に視線を向けて、積極的に外部に顔を出ることに専念しています。

——望月印刷が行っているCSR活動は地域に根差したものが中心になっていきますね。

望月 望月印刷の風土として、地域に育てて頂いた会社という意識が強くあります。CSR経営に取り組み以前の2010年から活動していた、地域社会との共生を目指すプロジェクト／ウェブサイトを「絆アベニュー」も象徴の一つです。現在は、埼玉の情報発信企業として「人と企業と地域社会の絆づくり」を柱に、埼玉の家族をテーマにウェブサイトの運営も行っています。

中でも、こどもたちの未来のために、団体・企業・個人がひとつになって開催する「こども☆夢☆未来フェスティバル」には2012年から毎年協賛参加しており、絆アベニューのペーパークラフト工作で会場を盛り上げ、地域における親子の明るく健全な関係づくりに寄与しております。

——教育機関・行政との連携も多く見られます。

菊地 弊社のお客様は官公庁や学校関係が多いため、そこでパイプが出来ることも評価を頂き、インター



2012年から協賛している地元NPO主催の「こども☆夢☆未来フェスティバル」

ンシップでもお声をかけて頂く機会が多くなっていますね。

望月印刷では、新社長就任以降、社内の若返りと将来を担う幹部社員の育成を目指し、新卒採用を意識的に行っていますが、学校・学生と良好な関係を築くことが、その一助となっています。

——学生さんはCSRを重視する人も多いと聞きますが、実際にどのような印象を受けていますか。

菊地 企業説明会で、「さいたま市CSRチャレンジ企業認証制度」や「全印工

連CSRワンスター認定」のお話をする、学生さんの反応が非常に良くなりま

すね。
ただ、CSRという言葉や経営の話

を短い時間で学生さんに理解してもらうのは難しいので、噛み砕いて説明する必要はあるように感じています。

望月 仕事内容や経営理念を上手に伝えるためのツールとしては、会社案内を使っています。ただ、弊社の会社案内では印刷機や工場の説明などは取外していません。仕事の事例はいくつか掲載していますが、冊子の半分以上は経営理念やスローガン、望月印刷の考えるCSRをステークホルダーごとに記載したものでなっていますので、会社案内でありながら、CSR報告書と環境報告書の側面を持たせています。

この会社案内を見てもらうことで、望月印刷がどのような想いや理念を持ち、実際にどのような仕事や事業をしているか、言葉では説明しにくい部分が一冊で分かるようになってるので、社外PRだけでなく社内教育にも使いやすいですね。

会社案内のノウハウを生かして、中小企業におけるCSR開示型企業PRツール『会社案内＋（プラス）』として、お客様が自社のステークホルダーに魅力を伝える商品としても

提案しています。

——最後に、今後の望月印刷の活動目標や課題があればお願いします。

望月 先ずは100年企業として勝ち残ること。これは向こう30余年変わることはない大きな目標です。

そのためには手を替え品を替えることになりましたが、今一番弊社でも力を入れているのが営業・企画部門になります。お客様のニーズが本当に多様化していくなか、「印刷物製造だけでなく、Webや動画も含めたイベント企画もご提案できますよ」とまで言える会社体制と知識のある担当者を育てなければなりません。

菊地 将来的には望月印刷の社名を変え、将来的には望月印刷の社名を変えてもいいですね。印刷の看板を掲げた状態で企画を提案しているからか、「印刷はそういうことも出来るの？」と言われることも往々にあります。

すぐに実行することは難しいですが、正面から向かって考えていかなければならない課題だと考えています。

望月 印刷も売上を伸ばし、企画やデザインも成長していき、更なる評価を頂ければ、印刷もできる広告代理店のような存在になれるでしょう。

これから何年も先を見越して、今まで以上に地元で愛される企業として成長していきたいと思っています。

亜細亜印刷株式会社

本社：長野県長野市大字三輪荒屋1154番地 創業：昭和38年 従業員：87名
代表者：藤森英夫 認定取得：2015年6月（ツースター） <http://www.asia-p.co.jp/>

CSR認定制度を活用して取り組みを改善 外部評価のメリットを経営に活かす。

——亜細亜印刷の普段の業務内容からお聞かせください。

藤森 設立以来、書籍専門の印刷会社として本に携わってきました。そのなかでも、国文学・考古学・歴史・仏教・法律・医学・伝記といった、さまざまな専門書を得意としております。



近年はDTPに代表されるコンピュータ技術が発達してきましたが、横文字の世界では、日本語の表現もおざなりになってしまいうことがあります。弊社は活版印刷の時代から培ってきた組版技術を引き継ぎ、「日本語」を文化として捉え、しっかりと伝えていく。ものづくりを通じてそれを可能に

できる会社だという自負があります。——各種認定を取得するなど、環境の取り組みにも注力されています。

藤森 弊社では総合的に環境配慮された印刷企業であることを示す「グリーンプリンティング」や、印刷工程で生じる有害な廃液を一切排出しない「バタフライマーク」の認証を取得するなど、印刷製造における環境配慮を心がけています。ただ、環境活動は認証を取得するために続けているわけでは決してありません。

従業員が働く環境は綺麗かつ清潔であるべきです。より大きな視点でいえば、地球温暖化問題のように、人間が生きていくためには自分のことだけでなく、守るべきことは守らなければなりません。そのような考え方のもとに行動したことが結果として、環境を守る活動や認証取得に繋がっています。

——CSR認定についても、亜細亜印刷が普段から心がけていることがもともとなつていのでしょうか。

藤森 「亜細亜印刷が世の中に必要とされるならば残るが、必要とされなければ無くなつたほうが良い」と私は常に考えています。

仮に会社が存在すること自体が社会悪になってしまうのならば、そのような会社を存続させていく必要はありません。

ただ、われわれが世の中に必要とされる会社であるならば、より一層必要とされなければなりませんし、やってはいけないことはやってはいけません。環境やCSRに対しての考え方、すべての出発点はここから始まっています。

——CSR認定を取得したことによる効果はありましたか。

藤森 事業運営の考え方については先に述べたとおりですが、CSR認定制度の案内は、弊社も所属している全日本印刷工業組合連合会（全印工連）からいただきました。

PマークやISO、GPマークなども同様ですが、外部機関による評価をいただくことはとても貴重な機会です。

とくに、全印工連という印刷業に對して一番理解している方々に自社を見てもらい、弊社の事業活動の至らないところを指摘いただければ、会社全体としての課題や新たな取り組みも生まれるでしょう。

——CSR認定取得の旗振り役は。
藤森 印刷業界の情報は私や取締役総務部長の森山から常に社内へ発信をしているのですが、検討の結果、CSR認定は彼を中心に取り組んでいくことになりました。

社会からより一層必要とされる会社にと語る藤森社長



森山 GPマークもそうですが、認定取得は会社の状況や企業体力に合わせ進めていくことが良いでしょう。

取得から2年目の更新審査にあたって、CSR認定もワンスターから上位認定のツースターに更新しましたが、従来やっている状況を改めて整理するという形で、無理なく更新することができました。

ただ、審査の文面を拝見するなかで課題も見えてきて、ワンスターからツースターに移行するにあたっては、顧客満足度調査や従業員アンケートの実施を行なうことにしました。

これがまさに、外部評価をいただくことによる効果と有効利用ではないかと思います。

——「世の中に必要とされる会社である」という方針は亜細亜印刷の歴史で培われてきたものなのでしょうか。

藤森 弊社は社是で「和」を掲げてきましたが、根本的な考え方はすべてそこに詰まっていると思います。

昔、物が無い時代では、なんとか自分（たち）だけでも生活が出来るようにと、自己中心の時代でした。

しかし、バブルも弾けるころには、物が無い時代から、物があふれる時代になりました。

最初とはにかく物を売り、日銭を



緊急避難場所を定期的に清掃
自分たちの避難場所を確認するとともに
地域社会との関わりを生む

稼ぐやり方で成り立っていたのが、今度は物を買う種類や方法を考えるようになり、今はそこに世間や社会を取り巻く人、さまざまな存在が介入し、すべての幸せについて考えなければならぬ時代です。

社是の「和」という言葉の持つ意味は時代背景とともに変化しているかと捉えています。

その活動のひとつが、亜細亜印刷の沖縄事業部の開設にあたります。

——沖縄に事業部を持つことがどのような貢献に繋がるのでしょうか。

藤森 沖縄は移住者や出生率の高さも手伝い、全国でもトップクラスのスピードで人口の増加が続いています。ただ、その一方で自殺率が日本一高い県だという側面もあります。

そして、その自殺の原因の8割以上は借金。また、その金額も50〜60万ぐらいたと聞いています。定職が少なく、賃金が安いことも原因のひとつにあげられるでしょう。

沖縄は物価も本土と比べれば安いので、物々交換などでお互いに助け合って生活し、生きていくことが出来る環境ではありますが、病気の治療や学校へ入学するためには必ずお金が必要になります。

また、色々な企業が助成金や税制優遇があるという理由で沖縄に進出しますが、数年間非正規雇用者を雇って、甘い汁を吸うだけで帰ってしまい雇用の改善もされません。

私はその状況はおかしいと思っています。本土がこれだけ豊かになつていながら、同じ日本でそのような状況に陥っている場所があるのは許せん。

そこで、亜細亜印刷では2011年に沖縄事業部を設立し、わずかではありますが、正社員雇用をすることで、その一助になりたいと考えました。

——営業所ではなく事業所である理由は。

藤森 沖縄で営業をして本土に仕事を持つてくるのではなく、本土でやっている仕事を沖縄に持つていき、現地にお金を落としていく仕組みを重視しています。

本土と沖縄のあいだで物流が発生してしまうと大きなコストがかかってしまうので、沖縄事業部ではデジ

タル製品に必要なワードの編集作業や文章作成を中心とした作業から始めました。

——沖縄事業部は今後も継続していくのでしょうか。

藤森 将来的には沖縄の事業部を独立させて、沖縄から本土に営業をかけて仕事を持つてくる状況にしたいと考えています。

直近では順調に事業部の人数も増えていきますので、これからはずと日本語組版の教育を本格的にしていきたいですね。

沖縄の社員からも組版作業をやってみたいという要望はありましたが、実際に教えたところ「とても面白い」と大変意欲的で、数人が組版の勉強を始めています。様子を見ながら、沖縄県に組版業務の一部を移行することも検討しています。

また、沖縄の印刷業の方々でも、日本語の組版で困っている方は多いと思います

ので、声をかけていただければ、積極的にお手伝いや社員教育で力をお貸しいたいです。



沖縄事業部の外観



——ここからは第41回技能五輪国際大会（イギリス・ロンドン大会）印刷職種部門で金メダルを取得した原山真規子（旧姓伊東）さんにもお話を伺いたいと思います。まずは当時のお話からお願いします。

原山 2年に1度開催される技能五輪国際大会に出場できるのは1カ国1職種1人だけ。当時の亜細亜印刷には出場経験者が居なかったため、大会の実情も分からず、手探り状態のスタートでした。



技能五輪金メダルの原山真規子さん

き、ときには生産用の機械を止めて、私が専属で練習が出来る体制も整えてもらいました。

そのようなサポート体制もあり、国内予選の筆記と実技を無事通過し、選考選手に選ばれ、技能五輪でも、金メダルを取ることができました。

藤森 彼女の負けず嫌いな部分が大きなモチベーションに繋がったと思います。ですが、当時の彼女は、真面目に働いている社員でも10年かけて変わっていくところを、1年で変わってしまいました。

変化したのは技術だけでなく人間的な面も含めての話です。大変な苦しみと彼女には与えてしまいました。そこまで成長し、今も会社を支えてくれていることを大変嬉しく思います。

——金メダルを取得したあと、原山さん自身のなかで新たに心がけていることなどはありますか。

原山 金メダルを取得出来たことが、私自身への良いプレッシャーになっていますね。技能五輪の経験を通じて習得したことを、仲間たちに伝え

ていき、互いに成長していきたいと思っています。

後輩のなかには、「私も技能五輪に出たい」というモチベーションで頑張ってくれている子も居ます。技能五輪は22歳以下の社員しか出場できないため、チャンスは限られています。今年開催される選考大会に出場した際には、是非その実力を最大限に出しきってもらえるよう、サポートをしたいと思います。

藤森 亜細亜印刷は日本語を文化として守って行くために組版の技術を真剣に学んできましたが、印刷はそれを「最高」の状態で表現するものです。

昔、墨一色の本を納めたところ、「紙粉で文字が欠けている」と納品先から連絡が入りました。ただ、それは肉眼では分からないもので、ルーペでチェックして欠けていることがよくよく分かるものでした。

社内でも「これに伝える必要は無いのでは」という意見がありがりましたが、印刷部の大塚部長（当時は課長）をはじめ、若い社員を中心に「『亜細亜印刷の品質はこんなものではないだろう』と言ってくれたのではないのか。それは非常にありがたいことである」と受け止め、刷り直すことになりました。

弊社の印刷部の社員も協力し、金メダルの取得に繋がったことは「自分たちのやってきた仕事へのこだわりは間違っていないかったのだ」とさらに自信を強く持つて進んでいけるきっかけにもなったのではないのでしょうか。

——最後に亜細亜印刷の今後の活動目標について改めて一言ずつお願いします。

原山 印刷業界で働く女性はまだまだ少ないのが現状です。「女性でも印刷業界で活躍出来るよ」ということを社内だけでなく、長野県や全国に向けて発信していければと思います。

森山 CSRマークを取得し、今回は上位認定のツースターに更新しましたが、これからが大事なフェーズに入ります。

今は足が一步前に出た状態。考えて実行し、繰り返しすることで初めて成果が生まれてくると考えています。

藤森 時代は常に流れて、絶えず変化をしています。今まで通りの仕事を続けるなかで、その変化を少しでも捉えて、変化しなければなりません。

亜細亜印刷が世の中から必要とされる会社として、社員や会社に関係する人たちはじめ、人々が幸せになっていく場所の一つとして意識してもらえれば幸いです。

CSR元気企業紹介「この会社に学べ！」

株式会社ソーケン

「木への感謝」から始まったCSRで、

人と人、企業と企業をつなげるエキスパート

株式会社ソーケンはオフィスや商業施設などの空間をデザインし、設計・工事や家具の納品までをプロデュースする内装会社。自社事業の得意分野を生かすだけでなく、業界・他社を巻き込んだCSR活動を積極的に推進し、その活動内容は多岐にわたる。同社のCSR活動について、有吉徳洋社長に話を聞いた。

有吉社長がCSR活動を始めたきっかけは2006年。亡くなった創業者である父の後を継ぎ仕事に没頭するなか、三回忌に「開かずの金庫」を開けたのが始まりだったという。



有吉社長

何が入っているかわからないということで、兄弟や親戚などにも通知し、当日は有吉社長自らビデオカメラを回し、弁護士立会いのもと金庫を開けてみたら、中から出てきたのは数冊の手帳と鉛筆書きで記された経営計画書だった。

金庫にしまっただけならば、よほどためになることが書いてあるに違いないと思った有吉社長は、それらを丹念に読んでいった。そして手帳の冒頭に必ず書かれていた「ソーケンは木の命を削って商売をしていることを忘れてはならない」という意味の言葉をみて、「木」に対する考え方が大きく変わったという。

「ソーケンでは家具も製造しているので、その過程で端材が出ます。従来はそれらを産業廃棄物として処理していましたが、まずはそこをもう一度見直し、木の再生エコを切り口としたプロジェクトチームを作ることにしました」

木の再生プロジェクトチームは若手社員を中心に構成。自己満足で終わらないようにとニーズ調査をおこない、児童養護施設に端材を再利用した組み立て式のクリスマスツリーを贈ることにした。

「児童養護施設ではクリスマスツリーのモミの木を寄附として頂くものの、処分も大変だし仕舞っておくこともできない。また子どもは木を舐めたり齧ったり抱きついたりするので、クリスマスツリーを置くこと自体にも不安が大きいなど、様々な問題を抱えていることを知りました」

ソーケンでは要望に基づき、ツリーの重心を下げて倒れにくくする、ぶつかっても怪我をしにくい素材に変える、塗装剤に海外から輸入した植物性のものを使用するなどの対策を実施した。そして、先代の手帳に書いてあった言葉で始まった社会貢献活動の第一号である、組み立て式のクリスマスツリーが完成した。

その後も、児童養護施設に対しては、食堂やトイレの内装工事（リニューアル）をプレゼントするなど、現在に至るまで様々な貢献活動を続けてきたが、そのような取り組みの継続によって、徐々に社員のモチベーションに変化が見られるようになったと有吉社長は振り返る。



「例えば、内装工事でも床工事というのとはとても地味な作業です。作業中は現場に入れないので人の目に触れることもなく、最終工程のため急かされはしても、なかなか感謝されることはないのが現実でした。ただ施設では子ども達と一緒に作業したので、子ども達も職人の仕事ぶりに興味津々で、塗装のやりかたを教わっ

企業や行政とコラボしてすみ鉄道で開催されたCSRプロジェクト



スターウォーズの公開直前に開かれた交流会。茅場町のソーケンサロンをNPO法人に貸し出し、楽しみながら参加者からはドミネーション（寄付）を募った。

たりして盛り上がりつつありましたね」床工事が完成したときには、施設内で拍手が鳴り響き、作業をした職人からも「この仕事をやってきて初めて感動した」と喜びの声が聞かれた。モチベーションアップが普段の仕事における士気向上にも繋がり、プロジェクトに参加した社員や職人から、新たな社会貢献活動や間伐材を使った製品の提案があがるようになった。林野庁からの表彰などもあって、業界や取引先にもソーケンの存在やCSR活動が周知され、業績にも結び付いてくるようになってきた。

「現在は業界を問わず、色々な人や企業とコラボすることを重視しています。各々の得意分野を生かせば、楽しくCSR活動が出来るはずですよ」と話す有吉氏のCSR活動はバラエティに富んでいる。

今年の5月には関連会社の株式会社ソーケン製作所の工場がある、地元千葉で「CSR列車」微笑みプロジェクト いすみ鉄道でいく音色は

続くよどこまでも」を開催。千葉県庁・大多喜市の行政、鉄道会社のいすみ鉄道株式会社、NPOともコラボし、千葉の房総半島を走るムーミン列車を貸切った。

本プロジェクトの狙いは冠にもついている「微笑み」にある。

有吉社長は「近年、スマホの普及も進み、電車内で泣く赤ちゃんや、声を出す障がいのある子が通報されて、降ろされる事案が増えてしまいました。ただ、一方でママさんのなかにはベビーカーのマナーを知らない方もいて、お互い様の面があります。微笑みプロジェクトを通じ、赤ちゃんや障がいのある子を持つママと、一般の人とが理解を互いに深め、日常生活でも電車のなかで微笑みを忘れず、安心を与えて合って欲しいと思い企画しました」と話す。

当日は間伐材で作ったヘッドマークとサボ（電車行き先案内）、乗車券をソーケンが用意。また、協賛企業や行政が、地元の名産品が詰まったCSR弁当、大多喜城の城下町案内、千葉の名所プレゼン、上総中野駅ホームでの演奏会（小湊鉄道も協力）、などの企画を用意することで、各々の得意分野を生かしたCSRコラボプロジェクトとなった。

また、同プロジェクト内では鉄道



熊本地震被災地での雨漏り補修
有吉社長も自ら現場に立った
これも企業コラボによるCSR活動のひとつ

写真の愛好者（撮り鉄）といすみ鉄道とのコラボ企画も行われた。マナー違反が批判されることの多い撮り鉄だが、マナーを守り決められた場所で撮影した鉄道写真を募集。ベスト賞に選ばれた写真は大多喜駅で販売しているカレーのパッケージに採用され、その売上金の一部がいすみ鉄道に寄附される仕組みだ。

「いすみ鉄道は、心無い撮り鉄に菜の花が踏み潰されるなどの被害に遭い、社長がブログに『撮り鉄はもう来ないでくれ』と苦情をあげたことも話題になりました。ただ、いすみ鉄道も撮り鉄の人たちも鉄道が好きという思いは同じ。今回のイベントは互いの距離を埋める、良い機会になったのではないかと思います」

毎週金曜日には川崎FMで放送されている「ソーケン有吉のソーシャルライフ」でMCを5年間務めているが、現在も社会貢献活動についての情報を発信するほか、宮城県山元

町とのコラボで東日本大震災復興の様子を伝えている。

今年で50期目を迎えたソーケン。有吉社長は社員たちに、「先人に感謝しなさい」と呼びかけている。「プロスポーツでいえば、今のプロ野球（球団）があるのは、学生野球が全盛の100年近く前に、先人たちがお金の儲かる仕組みを作りあげたからです。そう考えれば、ソーケンが50年続くことができたのも、先人がソーケンという会社が稼ぎを生み、人々を幸せにする仕組みを作ってくれたからにはかなりません」

これからは先代と同様に「社員とその家族の幸福の為に会社作り」に取り組むソーケンでは、これからは人間力の研鑽に一層努めていくべきだと改めて目標を掲げた。数字や知名度だけではなく、態度や振る舞いを心がけることで、日本一の内装会社を目指していく。

有吉社長はソーケンの未来に向けて、次のように期待を寄せた。「ソーケンの30周年パーティーは先代である父が、50周年では私が担当しました。70周年を迎えたときには息子が社長になり、孫を抱いた私をパーティーに招いてくれることを楽しみにしています」

カタチにしたのは、子供たちの夢。

子どもたちが、夢をもっとはっきりと思い描けたら？それはきっと夢の実現へ向かう大切な一歩になるはず。そのような考えから、私たちは dream printer プロジェクトを始めました。公園に突然現れた不思議なプリンター。子どもたちは戸惑いながらも、プリンターに自分の夢を伝えます。するとプリンターは夢が実現したときの姿を、その場でプリントしてくれます。プロジェクトの動画は世界160カ国以上で視聴され、大きな反響をいただきました。これからも私たちは、一人一人の想いをカタチにしていきます。



「dream printerプロジェクト」
“dream printer”で検索してください。

Giving Shape to Ideas



KONICA MINOLTA

FUJIFILM
Value from Innovation



「印刷のエコ」を支え続ける「大樹」、でありたい。

「寄らば大樹の陰」という教訓があります。頼りにするなら、力のある、しっかりした人物がよい、ということのとえですが、実際には「安易な選択」として、あまりいい意味では使われません。しかし、とりわけ環境サポートにおいて、メーカーは超然とした「大樹」であるべきです。そして業界の皆さまには、ぜひとも、どっしりと揺るぎのないメーカーを“環境パートナー”として選んでほしい。環境対応はとても地道な取り組みです。立ち止まってはいけない。弛まぬ努力で、新たな成果を次々と生み出していかなければならない。そしてその成果は、取引先先のクライアントにも恩恵をもたらせるものでなければいけない。富士フイルムが目指しているのは、まさに、「ビジネスにつながる」環境対応。企業を強くし、業界全体の発展を根底から支えていける壮大な環境ソリューションです。富士フイルムが富士フイルムである限り、私たちはエコについて考え、提案し行動し続けます。美しい自然、価値ある印刷文化を、美しいまま価値あるまま次代へ伝え残していくために。富士フイルムは、未来の大空へ向かって立つ、頼もしい大樹であり続けます。



富士フイルム グローバル グラフィックシステムズ株式会社

本社 〒106-0031 東京都港区西麻布二丁目26番地30号 富士フイルム西麻布ビル 03(6419)0300 [ホームページ http://ffgs.fujifilm.co.jp](http://ffgs.fujifilm.co.jp)

全印工連・未来に向けて 『2025計画』を策定

全日本印刷工業組合連合会は新たな産業成長戦略提言書『全印工連2025計画 新しい印刷産業へのリ・デザイン』をまとめた。2025計画は「環境」「地方創生」「女性活躍」「ダイバーシティ」「CSR」の5つの分野とマクロ指標・予測数値を通じて、10年後の印刷産業の姿を描き出すとともに、紙の印刷業という枠にとらわれず、人から人へ情報を伝える「INSTATSU」の担い手であることを広く社会に示し、印刷産業の新たな事業領域を定義している。

2025計画は、会員企業各社に変革の方向性を示してきた従来の全印工連ビジョンとは性質が異なり、印刷産業が今後10年間、どこに目標を置いて社会に貢献するのか、そのために何ができる産業であるか、進む方向性を取りまとめ、その思いと考え方を共有するとともに、地域社会や行政、政治に対する提言書として策定されたもの。

「環境」「地方創生」「女性活躍」「ダイバーシティ」「CSR」の5分野ではそれぞれ目標と実行に向けた行

動計画が示されている。「環境」ではグリーンプリンティング（GP）認定制度普及を基軸として、全産業に先駆けて、低炭素社会・循環型省資源社会・VOC排出抑制の実現に寄与するため、GP認定取得率20%（1000工場）を目標として掲げている。「地方創生」では越境リーダーの育成やオープンイノベーションの事例研究、「女性活躍」では出産後の復職率の向上、「ダイバーシティ」では「情報保障」ガイドラインの策定、「CSR」では認定企業の拡大、他組織とのコラボレーションなどを行動計画として掲げている。

CSR検定 第1回2級・ 第4回3級試験を10月に開催

第1回「新」CSR検定2級試験・第4回「新」CSR検定3級試験が2016年10月30日、全国の会場で実施される。2級試験は企業のCSR担当者など、CSRを深く学習している人が対象、3級試験はすべてのビジネスパーソン（会社員）、公務員、団体職員、学生が対象となっている。（㈱オルタナが主催）

「CSR検定」はこれまでのサステナビリティCSR検定を大幅刷新

し、2015年3月から年2回開催。CSRの理解者・企業を社会のなかに増やし、CSRの裾野を広げることで、重要性の理解をすすめる、業務にも生かしてもらうのが狙い。

問題内容は社会問題や事象、公的規約など、CSRの土台となる幅広い内容が問われ、「CSR検定3級」は直近の第3回までに1000人を超える受検者が集まっている。

日本商工会議所 人手不足に関する調査実施

日本商工会議所は「人手不足等への対応に関する調査結果」を取りまとめた。対象は全国の中小企業4072社（回答2405社）。

調査結果では、(1)人員の過不足状況について、55・6%の企業が「不足している」と回答し、昨年の調査と比較して5ポイント以上不足の割合が上昇した。中小企業の人手不足感が強まっている。

また、業種別に見ると「宿泊・飲食業」の不足感が最も高く、約8割の企業が不足していると回答。また、「介護・看護」「運輸業」「建設業」も不足していると答えた企業が6割を超えた。

(2)求める人材について（複数回答可）では、「一定のキャリアを積んだミドル人材」が69%で最も高く、前年調査よりも2ポイント高い数値となった。「高校卒業新卒社員」「大学卒業新卒社員」「管理職経験者等のシニア人材」など、その他の項目も対前年調査と比較して高い数値であり、幅広い層で人手不足が拡大している。

また、今年度は「*同一労働同一賃金」についても調査をしており、賃金を決定する際に考慮する項目（複数回答可）として「合理性がある」と考えられるものとしては、「責任」が76・9%、「本人の生産性」が76・7%と高い結果となった。

一方、賃金差の理由を求められた場合「立証が難しい」と考えられる項目については、「本人の生産性」が47%で最も高く、「将来の役割への期待」が43・3%、「責任」が37・5%と続く。

「合理性がある」と考えるものの「立証が難しい」と思われる項目が重なる結果となっている。

*同一労働同一賃金

同一の仕事（職種）に従事する労働者は、性別、雇用形態、人種、宗教、国籍などに関係なく、同一水準の賃金が支払われるべきだという概念。

CSRに取り組むお客様の 印刷製品づくりを応援する それがCSRマークです。



印刷製品へのCSRマーク表示例

CSRに取り組む印刷会社に仕事を頼みたい。
印刷製品にCSRに取り組んでいる**マーク**をつけたい。

でも、どこに発注すればよいかわからない。
そんな要望にお応えするのが

CSRマークです。

CSRマークは、印刷業界のCSR基準を達成した印刷会社がつけることができる信頼のマークです。

〈特徴〉

- 公正で信頼できる制度
- CSR研究の第一人者である横浜市立大学の影山教授監修のもと設計された基準を達成した印刷会社を客観的に審査
- 横浜市立大学CSRセンターが審査を実施し外部の有識者で構成される認定委員会で判定
- 基準はすべてホームページで公開
- 認定企業に発注すれば、無料でCSRマークの使用が可能
- CSRマークは印刷会社のCSRの取り組み度合いにより3種類
- 認定番号管理により社会的信頼性を確保

■問い合わせ先

全日本印刷工業組合連合会CSR認定事務局
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8
TEL.03-3552-4571 FAX.03-3552-7727
<http://www.aj-pia.or.jp/>

認定企業一覧 (2016年7月現在)

ツースター認定 (2016年7月現在 15社)			
福 島	(株)日進堂印刷所	愛 知	新日本印刷(株)
神奈川	(株)協進印刷 (株)大川印刷		(株)マルワ (株)二和印刷紙業
長 野	亜細亜印刷(株)	滋 賀	アインズ(株)
静 岡	杉山メディアサポート(株)	広 島	(株)ユニバーサルポスト
東 京	池田印刷(株) 六三グループ 文唱堂印刷(株)	香 川	(株)ミヤプロ
		福 岡	(株)ミドリ印刷
ワンスター認定 (2016年7月現在 84社)			
北海道	(株)ヒロミ産業 (株)プリプレス・センター (株)アイテックサプライ 中村印刷(株) (株)正文舎 北陽ビジネスフォーム(株) 植平印刷(株)	東 京	(株)長英 (株)相互 (株)TONEGAWA (株)エス・ワイ・エス
		愛 知	木野瀬印刷(株) プリ・テック(株) 半田中央印刷(株) 豊橋合同印刷(株) (株)愛知印刷工業 (株)荒川印刷
	宮 城		伊藤印刷(株)
	秋 田		(株)岐阜文芸社
	山 形		トーヨー印刷(株)
	埼 玉		ヨツハシ(株)
千 葉	(株)アサヒコミュニケーションズ (株)太陽堂印刷所 (株)総合印刷新報社 (株)弘報社印刷	岐 阜	協同印刷(株) 日本印刷(株)
	神奈川	富 山	第一共同印刷(株) 朝日印刷(株)
		石 川	(株)笠間製本印刷
新 潟	(株)第一印刷所 (株)プレスメディア (株)太陽プリント (株)第一製品流通 (株)あけぼの	京 都	(株)太洋堂 泰和印刷(株)
		大 阪	(株)ダイム 相互印刷(株) 富士精版印刷(株)
	静 岡		相互ビジネスフォーム(株) (株)美生社
東 京	(株)きうちいんさつ 日本レーベル印刷(株) (株)中央パッケージング (株)金羊社 大同印刷(株) (株)賢工製版 システム印刷(株) (株)ウエマツ (株)白橋 水上印刷(株) 創文印刷工業(株) (株)アドピア 荏原印刷(株) 壮光舎印刷(株) (株)五色 弘和印刷(株) 滝澤新聞印刷(株) (株)木元省美堂 (株)ザ・デジタルソリューションズ	兵 庫	船場印刷(株) 交友印刷(株) 丸山印刷(株)
		奈 良	(株)天理時報社 (株)アイプリコム 共同精版印刷(株) (株)明新社
			(株)和歌山印刷所
		岡 山	研精堂印刷(株) コーホク印刷(株)
		愛 媛	愛和印刷(株) (株)明朗社
		福 岡	(株)博多印刷 西日本印刷工業(株)
		熊 本	西日本ビジネス印刷(株) (株)啓文社

※都道府県内は認定番号順